

鷹取山自然観察会会報

2022. 3. 13 NO. 35

鷹取山蝶類について — 2021年調査 —

2021年4月から11月までの8か月間に行った蝶類調査の結果を報告します。2014年6月に会員により月1度の蝶類調査を始めてから8年目になります。蝶は種ごとに違った食草をもち、気候など環境の違いによってもすみ分けをしています。このため、地域の環境を評価するために蝶はよい指標となっています。

これまでの調査結果については、2014年の結果は会報7号、2015年の結果は会報11号、2016年の結果は会報15号、2017年の結果は会報19号、2018年の結果は会報23号、2019年の結果は会報27号、2020年の結果は会報31号に掲載されています。

三浦半島は三方を海に囲まれ黒潮の影響を受けるため、暖地性の蝶が多く分布しています。横須賀市自然・人文博物館の報告書(横須賀市博物館研究報告(自然科学)第60号)によれば、三浦半島では84種の蝶が記録されています。このうち、普通にみられる健在種は34種、近年減少または絶滅に追いやられている減少種は27種、温暖化などで増加傾向にある増加種は7種、単発的に記録される偶産種は8種、外来種は8種となっています。

2021年の蝶類調査は、引き続き環境省「モニタリングサイト1000里地調査」に登録して行いました。調査結果は国の方にも報告し、全国状況の把握に資することになります。

1. 調査方法

調査は環境省自然環境局及び日本自然保護協会における「モニタリングサイト1000里地調査マニュアル」に沿って、4月から毎月2回行いました。調査ルートは植物相調査のコースで行い、植生の違う6区間に分け調査しました

(会報12号植物相調査ルート(図1と表1)を参照)。調査頻度は月2度、原則として第1及び第3金曜日に行い、調査ルートを歩きながら、目視で判別できる種は記録し、シジミチョウ科、シロチョウ科、タテハチョウ科など同定

が難しい種については捕虫網で捕獲し、図鑑により確認し、記録しました。

2. 調査結果

7月の調査が悪天候のため1度になったため、2021年は14回のチョウ類調査を行いました。調査日によっては気象条件などにより出現する数に違いがありました。2021年は37種が記録できました。

調査区間の結果から見てみると、A区間は鷹取山公園内で草地の他、クヌギ、コナラの落葉樹とシイなど照葉樹もある区間です。草地にはキタキチョウ、ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモンなどが見られました。また、樹林内ではコムスジ、アカボシゴマダラ、モンキアゲハ、ヒメウラナミジャノメなどが観察されました。B区間は住宅地及び児童公園があり、アゲハの仲間やツマグロヒョウモンなどが見られました。C区間はシイ、カシなどの常緑樹の木々が多く、ここではヒカゲチョウの仲間やジャノメチョウの仲間が観察されました。D区間はコナラ、オオシマザクラなどの落葉樹が多い場所であり、アゲハの仲間、コムスジ、サトキマダラヒカゲ、ダイミョウセセリなどが見られました。E区間は杉林の林縁であり、ヒメウラナミジャノメなどジャノメチョウの仲間、ヒカゲチョウなどが多く見られました。F区間は畑地もある場所で、モンシロチョウ、ヤマトシジミなどが観察できました。

2021年には、クロマダラソテツシジミが初めて記録できました。ジャノメチョウ、クロノマチョウ、ゴマダラチョウも記録できました。一方、2021年に記録できなかった蝶は、オナガアゲハ、キアゲハ、アカシジミ、ウラナミアカシジミ、オオミドリシジミ、ミズイロオナガシジミ、ムラサキツバメ、ツマキチョウ、コチャバナセセリ、イチモンジチョウ、ヒオドシチョウ、ルリタテハ、ヒメアカタテハ、アサギマダラの14種でした。7年間の合計では、51種が記録されたことになります。

鷹取山の年別記録数

(調査頻度 2014～2015年：月1回 2016～2021年：月2回)

	科・亜科	種名	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1	アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	▼	○	◎	●	◎	◎	●	◎
2		オナガアゲハ	△	△	×	△	△	×	×	×
3		カラスアゲハ	△	▼	▼	●	◎	◎	◎	○
4		キアゲハ	△	×	△	△	△	×	△	×
5		クロアゲハ	▼	△	●	▼	○	○	○	▼
6		ジャコウアゲハ	▼	○	○	●	◎	◎	◎	●
7		ナガサキアゲハ	△	×	△	▼	▼	▼	△	△
8		ナミアゲハ	▼	▼	○	○	○	○	●	○
9		モンキアゲハ	▼	○	○	●	◎	◎	●	◎
10	シジミチョウ科	アカシジミ	△	×	△	△	△	×	×	×
11		ウラギンシジミ	△	▼	○	○	◎	○	▼	▼
12		ウラナミアカシジミ	×	△	×	△	×	×	×	×
13		オオミドリシジミ	×	△	△	△	△	×	×	×
14		ツバメシジミ	△	○	○	○	◎	●	●	◎
15		ベニシジミ	△	○	◎	◎	◎	◎	◎	○
16		ミズイロオナガシジミ	△	×	×	×	×	×	×	×
17		ムラサキシジミ	×	△	▼	▼	○	▼	○	▼
18		ヤマトシジミ	◎	◎	●	●	●	●	●	●
19		ルリシジミ	○	▼	○	○	●	●	◎	●
20		ウラナミシジミ	×	×	◎	◎	◎	●	◎	◎
21		ムラサキツバメ	×	×	×	×	×	△	×	×
22		クロマダラソテツシジミ	×	×	×	×	×	×	×	△
23		コジャノメ	△	◎	○	○	○	◎	○	◎
24		サトキマダラヒカゲ	▼	○	◎	◎	○	●	◎	○
25	ジャノメチョウ亜科	ジャノメチョウ	×	△	▼	▼	△	×	×	△
26		ヒカゲチョウ	▼	▼	○	○	○	◎	○	○
27		ヒメウラナミジャノメ	○	◎	●	●	●	●	●	●
28		ヒメジャノメ	△	▼	◎	◎	▼	▼	○	○
29		クロコノマチョウ	×	×	△	△	×	△	×	△
30	シロチョウ科	キタキチョウ	○	○	◎	◎	○	●	●	●
31		スジグロシロチョウ	△	△	▼	▼	◎	▼	▼	▼
32		モンキチョウ	△	△	○	○	○	▼	▼	△
33		モンシロチョウ	▼	▼	●	●	◎	◎	●	●
34		ツマキチョウ	×	×	△	△	×	×	△	×
35	セセリチョウ科	イチモンジセセリ	△	○	○	○	●	○	◎	◎
36		ダイミョウセセリ	▼	▼	○	○	○	◎	○	○
37		チャバネセセリ	×	△	○	▼	○	▼	△	△
38		キマダラセセリ	×	×	▼	▼	△	△	▼	▼
39		コチャバネセセリ	×	×	×	△	×	×	×	×
40	タテハチョウ亜科	アカタテハ	△	△	▼	○	▼	▼	△	△
41		アカボシゴマダラ	▼	△	○	◎	○	○	○	▼
42		イチモンジチョウ	×	△	△	×	×	×	△	×
43		コミスジ	▼	▼	○	◎	○	▼	○	○
44		ツマグロヒョウモン	○	○	●	●	●	◎	◎	◎
45		ヒオドシチョウ	×	△	×	×	×	×	×	×
46		ルリタテハ	×	△	▼	▼	▼	△	△	×
47		ゴマダラチョウ	×	×	△	△	△	×	△	△
48		キタテハ	×	×	○	▼	○	▼	▼	▼
49		ヒメアカタテハ	×	×	×	△	×	△	×	×
50	テングチョウ亜科	テングチョウ	△	×	△	▼	○	▼	△	○
51	マダラチョウ亜科	アサギマダラ	△	×	×	×	△	×	×	×

凡例 ×：なし △：1～3頭 ▼：4～10頭 ○：11～30頭 ◎：31～50頭 ●：51頭以上

なお、2021年も、調査とは別に、オナガアゲハ、アカシジミ、ツマキチョウ、ルリタテハ、アサギマダラの確認情報がありました。2021年の鷹取山では、ナラ枯れの被害を受けた樹が目立つようになった一方、ソテツの植栽がある住宅地では、クロマダラソテツシジミが多数見られました。毎年の蝶類調査を継続することによ

って、環境の変化による蝶類への影響も把握できる可能性があります。

3. その他

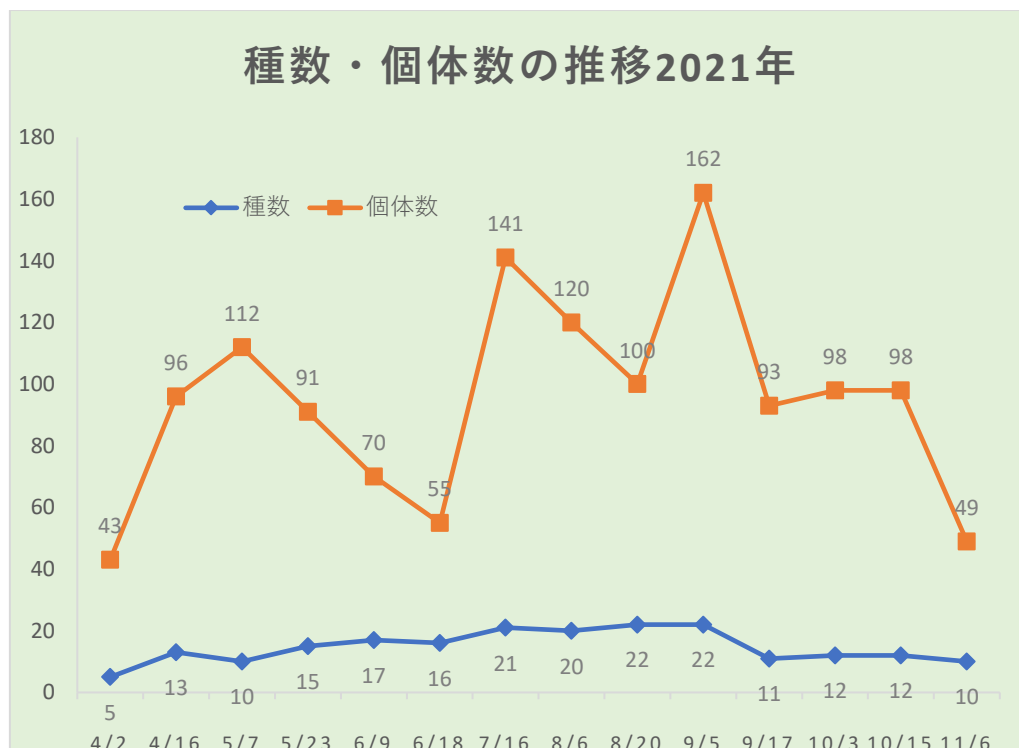
蝶類調査では、絶滅していく種やこの地域で新たに見つかる種を観察することもあるかもしれませんが。前述の博物館報告書による減少種の

うち、鷹取山自然観察会で8年間に記録されたものは、キアゲハ、ミズイロオナガシジミ、オオミドリシジミ、イチモンジチョウ、ジャノメチョウ、コチャバネセセリ、キマダラセセリ、ヒオドシチョウの8種になります。調査することは楽しみでもあり、調査を継続していくこと

によって、鷹取山周辺の蝶の生息状況がはっきりしてくると思います。

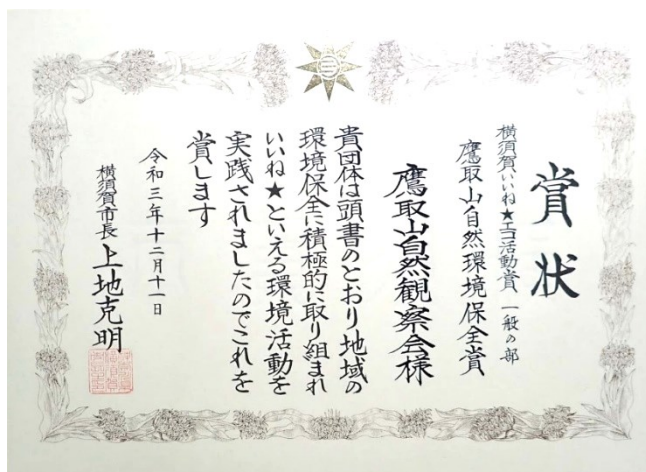
2021年調査に参加した人（鷹取山自然観察会）

本多久男、中村紀雄、金子龍次、伊沢昭司、市川寛、大澤美恵子、星野節子、菅沼桂子、村上良二、三科清高（順不同、敬称略）



横須賀いいね★エコ活動賞の表彰

会報34号でお知らせしましたが、2021年12月11日、ヴェルクよこすかにて、令和3年度「横須賀いいね★エコ活動賞」の授賞式が行われました。今年度は、学校等での1年以内の活動が対象の「学校短期活動の部」から4団体、市民団体や事業者、学校等の継続的な活動が対象の「一般の部」6団体の表彰状が横須賀市上地市長から授与されました。（写真参照）



また、表彰式の後、鷹取山自然観察会と他1団体が代表してパワーポイントを使って10分間活動報告をさせていただきました。

『センス・オブ・ワンダー』を知っていますか

レイチェル・カーソンが書いた『センス・オブ・ワンダー』は1990年代に日本でも刊行されて、自然保護や環境教育などの指導書として多くの人に読まれてきました。読んだ方もいると思いますが、読んでいない方も短編ですし、図書館で借りて一度読んでみてはいかがでしょうか。きっと自然のとらえ方が変わってくるとおもいます。

著者のレイチェル・カーソンは1962年に『沈黙の春』を書きあげ、DDTなど化学物質による自然破壊に警告を発しました。この本は世界中に反響を呼び、化学物質の規制などが進んだと

いわれています。しかし、その後も人類は様々な新たな化学物質を作り出し、その規制が追いつかないのが現状です。最近ではマイクロプラスチックによる海鳥や海洋生物に対する被害が報告されていて、21世紀の環境問題としてクローズアップされています。人類は温暖化など様々な地球環境問題を解決することができるのでしょうか。

『センス・オブ・ワンダー』は、カーソンが幼かった甥のロジャーと一緒に、海辺や森の自然の中で過ごした経験をもとに書かれた、エッセイ風の作品です。

「センス・オブ・ワンダー」とは「神秘さや不思議さに目をみはる感性」と訳されています。特に子どもにとって重要であるというカーソンの言葉は、自然体験を核とした環境教育の原点として、多くの人たちから支持され、折りにふれ強調されるものとなっています。

本の中で『知る』ことは『感じる』ことの半分も重要ではない (It is not half so important to know as to feel) というフレーズも、自然型環境教育の分野などで殊に有名となり、しばし引用されています。

自然観察会を運営しているものとして、どうしても植物名や昆虫の名前を教えてしまいがちですが、五感を使い、生き物の特徴などをよく観察したいと思って

います。名前を知って全てを納得して終わらないようにしたいと常々思っています。

観察会では、いつも思いがけない発見があります。ヤマトタマムシやオオミズアオといった昆虫などの出会いはその美しさに感動した方も多と思います。

また、観察会では一年を通して樹木や草花の観察を行っています。樹木では冬芽から春の芽吹き、そして葉を広げ花を咲かせ、夏から秋にかけて赤い実をつけ、やがて葉を落として冬を向えるところを観察しています。冬芽は、鱗片の中に、葉や花の蕾が隠れていて、暖くなるにつれて、鱗片を落としながら芽吹きが始まります。多くの草花も冬の間はロゼット状で過ごし、暖くなるにつれて茎を伸ばして、花を咲かせます。このようなイベントをじっくり観察することで、自然の生命力と不思議さを体感することができます。

また、私たちは植物の名前は知っていても、ほんの一部しか知らないことが沢山あるものです。例えば、カントウカンアオイは枯葉に隠れた土の表面に花を咲かせます。

冬の昆虫も少ない季節に花粉の媒介者は誰だろうと疑問が湧きます。今はネットで検索するとキノ

コバエやナメクジが花粉を運ぶと書かれています。そして種子は、アリが運ぶらしい。カンアオイの種子には、スミレと同じようにアリの好きなエライオソームという物質を付けているそうです。また、カンアオイは全草に匂いがあるというが、匂いを嗅いだことはあ



レイチェル・カーソン Wikipedia より



りますか。五感で感じたことは、きっと忘れることはないでしょう。

年を重ねると雑念も多くなりますが、いつまでも「センス・オブ・ワンダー」の心を持って、自然を見つめていけたらいいのと思います。（本多 久男）

『センス・オブ・ワンダー』の一節

多くの親は、熱心で繊細な子どもの好奇心にふれるたびに、さまざまな生きものたちが住む複雑な自然界について自分がなにも知らないことに気がつき、しばしば、どうしてよいかわからなくなります。そして、

「自分の子どもに自然のことを教えるなんて、どうしたらできるというのでしょうか。わたしは、そこにいる鳥の名前すら知らないのに！」

と嘆きの声をあげるのです。

わたしは、子どもにとっても、どのようにして子どもを教育すべきか頭をなやませている親にとっても、「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではないと固く信じています。

子どもたちがであう事実のひとつひとつが、やがて知識や知恵を生みだす種子だとしたら、さまざまな情緒やゆたかな感受性は、この種子をはぐくむ肥沃な土壌です。幼い子ども時代は、この土壌を耕すときです。

美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものにふれたときの感激、思いやり、憐れみ、賛嘆や愛情などのさまざまな形の感情がひとたびよびさまされると、次はその対象となるものについてもっとよく知りたいと思うようになります。そのようにして見つけた知識は、しっかりと身につきます。

俳句

鷹取山自然観察会に昨年から参加している小島常義さんは、趣味で俳句をやっています。自然観察会に

参加した際に作った俳句を投稿いただきました。その中から三句紹介させていただきました。

三月のテーマ「早春の野草を探してみよう」

初めての出会いの色や花通草 あけび

四月のテーマ「春に咲く花を見つけよう」

瑠璃色るりの蛍ほたる葛かずらや野に映ゆる は

五月のテーマ「オトシブミを見つけよう」

えこの葉にゆりかご一つ落とし文

俳句の作り方

俳句は、自然観察しながら作るのが良いようです。これを吟行（ぎんこう）といいます。皆さんも自然観察しながら、俳句を作ってみませんか。

1. 5・7・5の17音になること

俳句の定型は、5・7・5の合計17音の決まりの中で作るのがルールの1つめになります。

2. 季語

季語とは、季節を象徴的にあらわす言葉のことです。ひとつの俳句に季語が一つ入ります。これから作られる方は、春の季語となります。

3. 歳時記

準備物は、鉛筆とノートですが、あと歳時記という本が必要です。書店の俳句コーナーに行けばたくさんの歳時記が置いてあります。四季がすべて一冊に入っているものの方が、使いやすいと思います。

（本多 久男）

鷹取山のスミレ

私が勤務していた横浜の中心部伊勢佐木町にあるマンションの敷地の芝生の中に、きれいなスミレが毎年たくさん咲きました。しかし、持っている図鑑



では名前がわからないので、スミレ専門の図鑑を買って調べましたが、どうしても納得できません。名前がわからないときは横浜こども植物園に写真や実物を送って確かめていたので、そのスミレも調べてもらいました。しかし、「わからない」との返事が来ました。「サカタのタネ」でも聞いたことがあるので、問い合わせましたが返事が来ません。1ヶ月以上たってから返事が着て、「アケボノスミレの色変わり」だとありました。「サカタのタネ」でもわからなくて、スミレを専門に研究している人に問い合わせたのだそうです。しかし、今写真を見ても、ほんとにアケボノスミレなのか疑問です。花はニオイスミレに似ていますが、もっと大きいのです。

日本は世界有数のスミレ大国であるといえます。世界には400～450種のスミレが分布していて、そのうちの50種類ほどが日本で見られるので、国土面積の割には多くの種類が見られるからです。中でも多く見られるのがタチツボスミレで、日当たりの良い山道のどこにでも咲いています。

山路来てなにやらゆかしすみれ草 芭蕉

この「すみれ草」はタチツボスミレであると言われています。タチツボスミレが咲く3月下旬になると本当に春が来たことが実感できます。タチツボスミレは広い面積に群生するので、一面の花を見ると春を体感した安らぎを覚えます。観察コースにも。点々と小規模の群落を見ることができますが、残念ながら大群落はありません。4丁目第二公園からマンション方面に尾根道を進むと、かなり大きな群落を見ることができるので、ぜひ足を延ばしてください。

アカフタチツボスミレは「区分すべきか疑問があるが、知名度が高い、または明確な特徴を持つ」ものとして扱われています。葉の葉脈に沿って、えんじ色の斑が入り、花後には消えてしまうからです。数は多くはないようですが時々見かけます。

ニオイタチツボスミレは、神武寺から鷹取山の比較的日当たりの良い山道の裾にひっそりと咲いています。その名の通りほのかに香りがあるそうですが、私はまだ見つけていません。濃い紅紫色の花で、全体に毛が多いのが特徴で、見つけていても気づかなかったのかもしれません。

スミレ科スミレ属を総称して「スミレ」とも呼びますが、スミレはタチツボスミレほど目につくことはなく、鷹取山の中には見つけていませんが、住宅地の石垣の間とか、下水の蓋の隙間から出ているのを見つかることが多いです。乾燥を好むからなのか、乾燥には強いようです。スミレの仲間は種を遠くに（2mも飛ぶといえます）飛ばします。また種には「エライオソーム（種枕）」という付属器官があり、これをアリが好み、種を運んでいきます。そのため、石垣や下水の蓋の隙間などに運ばれて芽を出すのです。スミレはこの傾向が強いようで、コン

クリートの街中でもあちらこちらで見つけることができます。

ヒメスミレの花はスミレによく似ていて、全体が小さく葉の形が違います。花期の葉は三角状被針形で、スミレと違い葉柄には翼はなく、葉の上面は暗緑色で、裏面は普通紫色を帯びています。花はスミレより小さく、距は緑白色に赤紫色の斑点があります。住宅地の縁石の隙間から芽を出す場所があり、毎年花を咲かせます。



タチツボスミレ



ニオイタチツボスミレ



ヒメスミレ

「春」

てふてふが一匹韃靼海峡を渡って行った

安西冬衛

鷹取山ではこの5種類ですが、スミレは高山から低地まで、しかも深山から街中まで見つけることができます。しかし、識別にも迷うことがあります。それは、葉の形や色がとても似通っているからです。しかもアケボノスミレのように、色違いのものや、交雑したものもあり、さらに特定されていないものもあるようです。葉の形、距の形、毛の生え具合などをルーペを使って詳細に調べる、それも温かくなった春を感じる一つの楽しみです。（市川 實）



アカフタチツボスミレ



スミレ

クロマダラソテツシジミ

クロマダラソテツシジミは南方系の蝶で、ソテツの新葉を食草としています。三浦半島では、逗子マリーナや南葉山霊園などソテツの植栽が多い場所で、最近では毎年のように確認されていました。しかし、厳しい冬を越した記録はありません。

2021年は、神奈川県内の各所で、多数のクロマダラソテツシジミが確認されました。鷹取山周辺でも、湘南鷹取2丁目の花壇など、住宅地内を飛び交う成虫が見られました。（三科 清高）



2021/10/10 湘南鷹取2丁目

鷹取山自然観察会のご案内

2022年度自然観察会の予定

鷹取山自然観察会では、自然とのふれあいを大切にして季節ごとの様々な生き物を観察しています。日程は表のとおりです。初めての方もお気軽にご参加ください。

日 程	観察会のテーマ	集合場所
4月10日(日)	春に咲く花を見つけよう	京急田浦駅
5月 8日(日)	オトシブミを見つけよう	追浜駅
6月 5日(日)	初夏に咲く花を観察しよう	神武寺駅
7月10日(日)	蝶とその食草を探してみよう	追浜駅
8月14日(日)	セミやバッタの観察をしてみよう	京急田浦駅
9月11日(日)	鷹取山の秋の七草は何でしょう	追浜駅
10月 9日(日)	コオロギなど鳴く虫を探してみよう	追浜駅
11月13日(日)	野菊の違いを観察しよう	京急田浦駅
12月11日(日)	落ち葉の種類を見分けよう	追浜駅
1月 8日(日)	冬を越す樹木とロゼットを観察しよう	追浜駅
2月12日(日)	冬鳥の観察と冬芽を観察してみよう	京急田浦駅
3月12日(日)	早春の野草を探してみよう	追浜駅

注) 観察会のテーマは変更する場合があります。直近の情報ご確認ください。

◆集合場所：集合場所駅改札出口9時20分集合30分出発

観察会は12時まで現地解散小雨は決行。大雨の場合は翌週の日曜日に延期します。(延期の場合は朝7時までにメールで連絡します。)

◆参加費：会員100円、非会員200円(保険料・資料代)小学生100円、未就学無料

◆定員：20人、先着順

◆申込方法：住所、氏名、電話番号(保険加入のため)メールアドレスを記入して、下記のアドレスまで申し込みください。小中学生は学年をお知らせください。

◆持ち物：歩きやすい服装、メモ帳、鉛筆、飲み物、あれば虫眼鏡及び双眼鏡

◆注意事項：コースの途中には坂道、足場の悪い場所もあるため滑りにくい靴で参加下さい。新型コロナ対策としてマスクの着用、ソーシャルディスタンスなど感染対策に配慮ください。

◆持ち物：メモ帳、鉛筆、飲み物、あれば虫眼鏡、双眼鏡など

◆主 催：鷹取山自然観察会

《問い合わせ・申込み先》

メールアドレス takatori_0721@nifty.com

